

小松工高新聞

発行
小松市打越町丙67
石川県立
小松工業高等学校
新聞部

祝 卒業 記念号

石川県立小松工業
高等学校長
林 純一郎



「小松工業高校生
としての誇りを
持つて」

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。「光陰矢の如し」あつという間の三年間だったのではないのでしょうか。

しかし、皆さんは、確実に成長しています。身体の成長はもとより、学校で学んだ知識・技能、ものに対する考え方、社会人としての心構え等全ての面で、皆さんは大きく成長したと思います。

部活動では、「チームこま工」を旗印として、スタメン、控え選手、応援選手関係なく全ての生徒が心を一つにして、最後まで諦めず、戦い抜いていました。

この「チームこま工」の思いは、「一・二年生にもしっかりと引き継がれ、今年度の新人大会においても、各部活動それぞれがすばらしい活躍をしてくれました。

また、体育祭、工業祭では、最高学年として一・二年生をしつかりまとめ、「Newer Give Up」のスローガンのもと、多くの観客を感動させました。

工業祭では、各科趣向を凝らした模擬店開催は、一・二年生はもとより、多くの一般来場者を楽しませ、賑わいを見せていました。

特にその工業祭で印象に残っている場面は、三年生の後片付けの行動でした。二日目はあいにくの雨交じりの日で、当日 TENT を片付けることができず、片付けは TENT が乾いた二日後の放課後になりました。

当日の放課後、三年生は、「後片付けが終わるまで工業祭は終わっていない」を合言葉に、テキパキと一生涯懸命後片付けに取り組んでいました。その最後までやり遂げる、小松工業生の姿に感動しました。

サイエンスヒルズ等での出前授業においては、小学生に対して分かりやすく、丁寧に教えていました。その時の生徒の姿、表情はやさしさにあふれています。今でも忘れられません。

進路においては、今

年度も、約八割の生徒が就職し、そのほとんどが地元(南加賀地区)で仕事に就き、地域企業・社会に貢献しようとしています。このような学校は、石川県内唯一だと思えます。これも本校が誇れることの一つだと思っています。

改めて小松工業生に敬意を表するとともに、このような伝統を築き上げてこられた、同窓生、また、優しく時に厳しく育ててこられたきた保護者の皆様に感謝申し上げます。

大学進学者も含めて、皆さんは社会人となつていきます。この小松工業の伝統と誇りを胸に、これからも地域の発展に尽くしていつて下さい。

これからは、少子高齢化が進み、時代は AI に取って代わってきます。

二〇二〇年には東京オリンピックが開催されますが、その頃になると、女性の二人に一人が五十歳以上になると言われています。

また、二〇二五年には、団塊の世代が七十五歳を超えて後期高齢者となり、国民の三人に一人が六十五歳以上、五人に一人が七十五歳以上という超・超高齢社会となつていきます。

その時、必要とされるのが人間力を持った人材ではないかと思えます。

AI がどんなにすばらしいとしても、人間の感性には、まだまだ及ばないでしょう。

皆さんが QC 検定で学んだ 5M の中の、Man (人) が最大のポイントになって来ると思っています。

その時が、本校で培ったみなさんの人間力の見せ場です。何事にも自信を持って行動し、地域企業・社会に貢献し期待される「人材」となつていつて下さい。

そして、小松工業高校を卒業したことに自信を持ち、これからも活躍されることを祈念致しております。

卒業生から 在校生への メッセージ

機械科 一組
西山 司

小松工業に入学してはや三年が経ちました。

思い返してみれば、楽しかったことや大変だったことが思い出されます。

体育祭や工業祭、マラソン大会、駅伝大会

など多くの行事を通して、クラスが一致団結し協力することで、皆の絆が深まったと思います。

特に体育祭は、三年生が一、二年生を引っ張り、団結して優勝できたことが印象に残っています。

部活動では、つらい練習でやめたいと思うこともありましたが、仲間と助け合いながら日々の練習を続け、成長していくことができました。また、あいさつなどの礼儀も部活動を通して学ぶことができました。

高校三年間は、時間が経つのがとても早く感じました。後輩の皆さんは、限られた高校生活を大切にして、一日一日を有意義に過ごして下さい。

四月からは、皆それぞれ新しい道へ進むこととなります。小松工業高校で学んだことを忘れずに頑張っていきたいです。

機械科 二組

牧田興紀

私は就職先を決める時、自分が何をやりたいのかわからなかったため大変悩みました。そこで私は、社会人になつた時に、仕事以外で何がしたいのかを考えました。その時、思いついたのは部活動として続けていたボウリングでした。私はまずボウリング部のある企業を探しました。その結果、実業団チームを持つ企業が数件見つかり、そこから作業内容

を確認し、自分が得意とする作業ができる企業を選ぶことで、一つに絞ら込むことが出来ました。

これから就職を目指す。自分ができるように頑張りたい。仲間と助け合いながら日々の練習を続け、成長していくことができた。また、あいさつなどの礼儀も部活動を通して学ぶことができました。

電気科 一組

山野下愛美

小松工業高校に入学してからの三年間、電気科の皆と過ごした日々は、とても楽しくあつたという間でした。毎年クラスが変わり、その年その年違った楽しい思い出が沢山あります。その中で体育祭では、優勝することは出来なかつたけど、皆で協力し「丸」となって楽しむ事が出来て、記憶に残る素敵な思い出を作ることが出来ました。その他にも工業祭や修学旅行、マラソン大会など行事を通して

皆で団結し、また成長していくことができたと思います。

高校三年間はあつたという間に過ぎていきました。後輩の皆さんは、一日一日を大切に、今しか出来ないことを全力でしてください。そして、友達を大切に沢山遊んで最高の思い出を作ってください。

四月になると皆新しい道へ進むことになり、小松工業で過ごした事は忘れません。

三年間ありがとうございました。

電気科 二組

敷山拓巳

小松工業高校に入学してからはや三年が経とうとしています。思い返せばたくさんの思い出があり、楽しかったことや辛かったことなど、充実した日々を送れました。入学当時は、なにをしていいのかわからなかったけど、友達も増え、目標に向かって頑張ることができました。三年生になると、就職試験など考えなければならぬことがたくさんあり、社会人になることに對して不安の毎日でした。部活動では、たくさんの人たちと出会い、新しい発見や、努力することの大切さを学ぶことができました。



球技大会

時間、限られているかもしれないけど、目標を立てていろいろなことに挑戦して、どんどん成長していただきたいと思います。そして、笑顔で卒業の日を迎えてください。

建設科

岩住 薫

小松工業高校に入学してからは、もう三年が経とうとしています。

三年間同じクラスメイトたちと共に色々なことを乗り越えながら、思い出を創りあげることができました。私は就職先や進学先も決まり、無事卒業を迎えることができます。今の私があるのは先生方や友人、親のおかげだと思います。今までで先生方にたくさん迷惑をかけた。しかし、私たちが向き合ってくれたり、支えてくれたりとたくさんお世話になりました。友人とは将来の夢を語り合い、時には喧嘩する時もありました。これも友人との絆だと思います。また、毎日弁当を作ってくれた親には、感謝の気持ちでいっぱいです。

とができるのは、学生生活の間だけです。残りの高校生活で一つでも楽しい思い出が残るように、一日一日を大切に過ごしてください。

材料化学科

大友春生

この三年間で学んだ事は、行動する前にそれが正しい事なのか一度考えることです。

一年生の頃はまだまだとまりがなくばらばらでしたが、ボランティア遠足・球技大会・文化祭では全員で助け合い、クラスの仲が深まりました。私はこのクラスに会えて本当に良かったです。

後輩のみなさんは、残りの学校生活を悔いの残らないように楽しんでください。これから結果が見えず不安になることがたくさんあると思います。しかし、先が見えない人生を歩み努力をすることで、結果も少しずつ見えてくると思います。たとえ失敗に終わっても一生懸命頑張る事が大切だと思えます。感謝を忘れず頑張ってください。今までありがとうございました。



課題研究発表会

今、僕がみなさんに伝えたいことは、時間はあつたという間に経ってしまうということだ

友人たちと楽しく当たり前のように会うこと



マラソン大会



五年ぶり二度目の快挙

第十七回高校生ものづくりコンテスト全国大会の旋盤作業部門で、機械科三年の土山稜人君が優勝した。県勢が同部門で日本一に輝くのは、本校の柳下学さんが二〇一二年に達成して以来二度目となった。

土山君は肘を痛めるまで練習に打ちこみ、栄冠をつかんだ。



機械科 三年 土山 稜人

私は、機械研究部に入部し、ものづく

りコンテストに挑戦してきました。二年の時に初めて出場した県大会では二位、北信越大会では四位という結果でした。この大会では自分の今まで練習してきた技術の未熟さやメンタルの弱さ、負けた時の悔しさを知ることができました。大会が終わってから反省会を開き、来年にむけてのスケジュールを立て、大会を意識した練習をしました。

今年のものでづくりコンテストでは県大会一位、北信越大会二位を取ることで、全国大会の出場権を得る

ことができました。全国大会では県、北信越で使用した旋盤と違う種類の旋盤での競技になり、毎日問題が発生し、大幅に工程が変わるところもありました。

全国大会は広島県で三日間の日程で、前日に移動し体調を整えました。初日の練習では作品の光沢が練習のようにならず、時間を使ってしまい予定した練習をすべて行うことができず、不安が残りました。ホテルに戻ってからイメージトレーニングなどを繰り返していました。

競技当日は練習の時に解決できなかった光沢を諦めて、ほかのところを完璧に作ることを目標にし

ました。競技が始まってからは、日々の練習通り落ち着いて削ることができました。

結果発表は親も見に来ていたので、一位の発表で私の名前が呼ばれた時は嬉しかったです。優勝することができたのは自分一人の力だけでなく、周りの方々の支えがあったからなので、その期待に応えることができ本当に良かったと思います。三年間この部活でものづくりコンテストを通して、自分を支え、成長させてくれた先生方や部の後輩、沢山の人の感謝して、就職してからもこの経験を生かしてものづくりの分野で精一杯頑張りたいと思います。

輝く未来の進路に向けて

進学

富山大学合格



機械科 三年 加藤 大成

私は、春から富山大学の工学部機械工学コースで学んでいます。私が進学を決めた理由は大学でより専門的な知識を学び、将来必要なス

キルを身に付け、自分の成長につなげたいと思ったからです。

私は、小松工業高校機械科に入学したときには就職しようと考えており、モノを作る仕事をしたかと思っていました。しかし、インターシップや工場見学を通して、モノを作る仕事よりもモノを開発する仕事をしたかと思ふようになりました。

小松工業高校で多くの専門的な知識を身に付けました。しかし、私のしたい仕事をするには高校で習うこと以

上のことをより深く学ばなければならぬと思います。そのため私は、自分のしたい仕事をするためにも大学で学びたいと思うようになりました。

私は両親や小論文を指導してくれた先生、面接練習に付き合ってくれた先生、数学と物理の補習をしてくださった先生などいろいろな方々に支えられてきました。そのおかげで試験のときここまでやってきたから大丈夫という自信を持つことができました。その自信があったからこそ変に緊張せず、試験に挑むことができ、希望の

大学に合格することができたのだと思います。大学では、高校で身に付けた知識や技術を活用しながら各研究室で研究し、疑問を自分たちで解決していかなければなりません。私は大学で学んだ知識や身に付けた技術は必ず将来働くうえで役に立つと思います。

私にとってこの試験までの日々はとても自分の成長につながる日々になりました。大学に入ったらより大変になると思います。しかし、せっかく掴んだチャンスを無駄にしないようがんばりたいです。

就職

株式会社小松製作所 所粟津工場内定



機械科 三年 澤田 真希

私は、中学生の頃から就職したいと思っていた企業に内定を頂くことが出来ました。内定を頂くことが出来たのは、決して私一人の力ではなく、相談に乗って下さった先生方や、

少林寺拳法部 全国高校選抜2位

建設科 三年

小原 茉緒



少林寺拳法には、他のスポーツとは違った所があります。それは、勝ち負けにこだわらないということです。結果が全てではありません。しかし、負けない人間を作る少林寺拳法でもあります。「勝つて驕らず、負けて腐らず」。大会があるからには、点数で順位が決まるからには、私は「勝ち」を求めて練習してきました。その結果が全国大会

私の進路を応援し支えてくれる両親がいたからです。そして、就職試験を受けるまでの忙しさと緊張に追われる日々の中、毎日楽しく学校生活を送ることが出来たのは、クラスメイトのおかげです。私は機械科に在籍していて、周りはほとんど男子です。中学校の共学とは違い女子が少なく、入学当初はクラスになじめたのかとても不安でした。でも、みんなが挨拶してくれたり、一緒に話してくれたりととても優しい人達ばかりで不安

で二位という成績を残せたのではないかと思います。全国大会という大舞台での表彰台が確定した瞬間、夢かと思えました。そして、肩の荷が下り、正直ホッとしました。でも、一位との差は一点。たかが一点で逃した日本一。その時私は、たかが一点の重みを強く感じました。

見習いから始まり約二年、こんな私を全国と戦えるレベルにまでしてくれた指導者、私を本気にさせてくれたライバル、応援し続けてくれた家族、沢山の経験をし、私を成長させてくれた少林寺拳法、全てに感謝です。

はすぐになくなり毎日他愛のない会話を繰り返したりすることが、学校へ行く楽しみの一つにもなりました。就職するためには勉強はとても大事です。でも、その勉強を目標に向かって辛抱強く続けるためには、一緒に学校生活を送り、共に勉強に励むクラスメイトや友人が必要不可欠です。そして私が在校生のみなさんに伝えたことは、三年間を共に過ごすクラスメイトや友人を大切にしたいということです。これからの学校行事な

弓道部 全国高校選抜3位

建設科 二年

河原 まどか



私は今回の選抜大会で三位の結果を残すことができたが、優勝できる可能性があったのに、集中力やあせりで、チャンスを掴めなかったことが悔しい点であり、反省点です。試合では、先輩や先生、仲間に教えてもらった事を思い出して、活かすことができたと思います。また、緊張感のある試合を続ける事で精神的に削られていている感じがとても

どでさらに絆を深め、三年生での就職、進学という大きな目標を達成出来るよう頑張っていました。私たちロボット製作班は県大会優勝、全国大会出場という二つの目標を掲げロボット製作に取り組みしました。しかし県大会では全国大会出場という目標は達

して、大変でした。学んだ事は、試合前日の調整がとても重要なことです。この経験を活かして、次の大会で悔いのない試合ができるように頑張ります。

ボウリング部 国体7位

ボウリング部 国体7位

機械化 三年

牧田 興紀



私は、石川県代表として、えひめ国体に出場しました。国体に出場する機会には滅多に無いので、少しでも良い成績を残せる様、日々練習に励んでいました。しかし、本番の一週間前、体育の時間に足を捻挫してしまい、練習が出来なくなりました。そして迎えた本番、やはりケガした足では踏み込むことが出来ず、個人戦ではほぼ最下位という結果に終わりました。私は個人戦の結果を受け、このままではいけないと思いました。続いて始まった団体戦では、気持ちを取りセットし、スピアを取ることに集中しました。その結果、何とかスコアを維持し、相手の選手が高いスコアを出してくれた為、決勝戦に出場することができ、最終的に七位という結果を残すことが出来ました。

成しましたが、県大会優勝という目標は叶いませんでした。私たちは数週間後に迫る石川県技能祭りに優勝の目標を移し、取込み機構の増設やプログラムの改造を行い、ロボットの大幅な改造に取り組みしました。その結果、石川県技能祭りは見事優勝を果たし、県大会のリベン

くください。みなさんの高校生活がより楽しくなることを心から願っています。

全国ロボット大会に参加して

機械科 3年 西村 琉吾



私たちは県大会優勝、全国大会出場という二つの目標を掲げロボット製作に取り組みしました。しかし県大会では全国大会出場という目標は達

成しましたが、県大会優勝という目標は叶いませんでした。私たちは数週間後に迫る石川県技能祭りに優勝の目標を移し、取込み機構の増設やプログラムの改造を行い、ロボットの大幅な改造に取り組みしました。その結果、石川県技能祭りは見事優勝を果たし、県大会のリベン